

## 「京地どり」の生産体制を支援

- 家きんサルモネラ感染症の発生に伴う緊急支援 -

京都府内で「京地どり」のひなを生産する唯一の種鶏場において、7月に家きんサルモネラ感染症が発生したことに伴い、当センターは、その緊急支援として、種鶏場に替わり「京地どり」のふ化を行い、ひなを生産農家へ譲渡しました。

種鶏場の生産体制が再構築できるまでの間、この体制を維持し支援を継続します。



当センターでふ化した  
「京地どり」のひなの健康チェック



生産農家へ譲渡した「京地どり」のひな

## 小麦フル活用による水田自給飼料確保のための調製技術

当センターでは、水田自給飼料を確保する上で、小麦の「わら」と「子実」を家畜の飼料としてフル活用するため、小麦の貯蔵法と利用性の研究を行っています。今回、未乾燥の小麦わらに尿素を添加して密封したものを3か月後に和牛に給与したところ、牛はアンモニア臭がやや強く最初は戸惑い気味でしたが、十分食べることを確認できました。また、未乾燥の子実にプロピオン酸を添加して3か月後に調査したところ、プロピオン酸濃度が1.5%以上であればカビの発生もなく十分貯蔵できることが確認できました。今後は栄養価などの評価を行い、小麦のフル活用方法の具体的な提案につなげていきます。



上：牛への小麦わら給与状況

調査時の小麦子実

下：開封時の小麦わら

## 飼料米の低コスト貯蔵技術の開発

飼料自給率の向上と中山間地域における遊休農地の解消のため、飼料米の生産拡大が進みつつあります。この取組を更に推進するには、生産コストの低減が必要不可欠な課題となっています。そこで、当センターでは、収穫した飼料米をコストがかかる乾燥行程を省くため、収穫した籾米に酸を添加後フレコンバッグで保存し、その貯蔵性と嗜好性を確認する試験を開始しました。



酸を添加した籾米をフレコンバッグで貯蔵

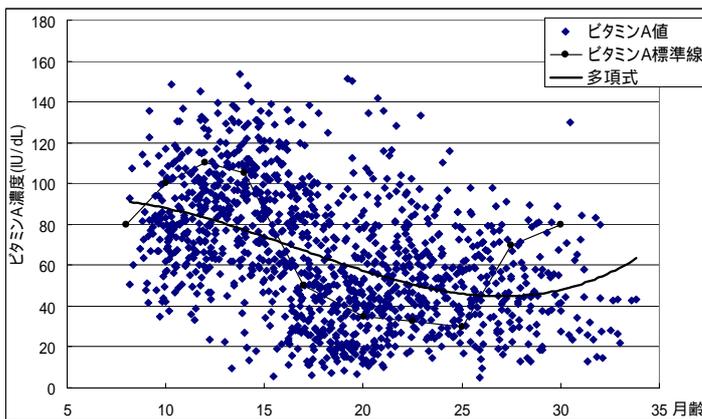


飼料攪拌機を用いて  
酸を添加・調製

## 和牛の生産性向上の成果を発表

- 近畿地区連合獣医師会三学会 -

10月10日に大阪府立大学で開催された近畿地区連合獣医師会三学会で、当センターからは、「京都府内の肥育農家における血中ビタミンA濃度測定による肥育技術指導の取組」、「和牛子牛放牧時における長期持続性抗コクシジウム剤の効果」と題し、2課題を発表しました。和牛の生産性向上により農家の経営向上を図る発表に注目が集まりました。



膨大なデータを解析  
(肥育牛1,234頭の血中ビタミンAの測定値)



放牧中の試験子牛

畜産センター  
淀高原牧場

## サポートカウの放牧が終了

綾部市、福知山市、京丹波町の耕作放棄地に放牧していたサポートカウ8頭の放牧が終了しました。8頭の牛は、たくましく、大きな腹になって畜主の元へ帰って行きました。畜産農家は飼料費や管理費の節減となり、地域では耕作放棄地対策となるこの取組を、来年はより多くの畜産農家と地域の要望に応えられるよう進めていきます。



福知山市で放牧していたサポートカウが綾部市の農家に帰ります

## 中学生が畜産業の一端を体験

- 2日間の職場体験学習を受け入れ -

10月5日、6日の2日間、綾部市立綾部中学校の生徒8名が、体験を通して働くことを学び、職業について考える職場体験学習のためにセンターを訪れました。生徒は、牛に飼料を与えたり子牛へのほ乳、ふんの掃除や牛の手入れなど、初めて体験する生産現場での作業に楽しく熱心に取り組んでいました。



エサを催促する乳牛に最初はおよび腰



楽しかった牛との散歩

## 酪農家での活躍を願って

- 10月20日、乳用育成牛の譲渡会を開催 -

碓高原牧場では、酪農家の乳牛を3か月齢前後で買い上げ、和牛の受精卵を移植し、分娩3か月前の21か月齢で譲渡する乳用牛の育成・譲渡を行っています。

今回の譲渡会では、放牧場の傾斜地で足腰を鍛え、豊富な牧草で腹容豊かに育った乳用育成牛19頭が農家に引き取られて行きました。

譲渡先の11戸の農家で活躍することを期待しつつ送り出しました。



譲渡前に横一列に繋ぎ育成の成果を最終確認

畜産センター  
碓高原牧場